

平成 28 年度

第 3 回恵那市総合計画推進市民委員会 会議録

日時：平成 29 年 2 月 27 日（月）

午前 10 時 00 分から

場所：恵那市役所 西庁舎 3 階 災害対策室

1. 会長あいさつ

2. 市長あいさつ

3. 会議の公開、公表について（確認）

4. 議 事

【 第 1 部 】

（1）提言内容への対応状況について 資料 1

（2）平成 29 年度主要事業及び実施計画について 資料 2 資料 3 資料 4

5. その他

6. 第 1 部閉会のあいさつ（副会長）

■事務局（進行） 本日の欠席委員は報告を受けている方が 11 名ある。次第の名簿に欠席と記載したが、追加で 13 番鈴木委員、14 番樋田副会長、23 番水野委員、24 番松井委員が欠席となっている。

定刻になったのでこれより委員会を開催する。

1. 会長あいさつ

■事務局（進行） 西村会長からあいさつをいただく。

■会長 今日とは通常の会議とは違い、第 2 部で皆さんの意見を直接聞きたいのでグループ討議の時間を作った。知恵をお借りしたい。というのは、事前に打ち合わせをしたり、新年度の事業や実施計画等々を見せてもらった。上がっている問題意識としては、総合計画において人口減少と財政基盤の維持・拡充の 2 つが総合計画の大黒柱だが、第 1 の柱の人口減少に歯止めがかかっていない。それに対し、前回の委員会でも各種提言が出された。子育て、医療等についてなど…それらについては手を打ったつもりだ。これで止まるのか、或いは、まだ何か足りないのかということも含めて皆さんの知恵をお借りしたいと本当に思っている。各地の経験や取り組みについての仕方については前もって僕から事務局に提言した。それでもなおかつ止まらないのはどうしてか、どうしたらいいか、本当に真剣に考えている。心からお願いしたい。

政策がきちんとしていてその実施がまだ十分ではないので、それが浸透していけば歯止めがかかるのか。となると実践の仕方に知恵を借りることになるし、そもそもまだ足りないものがあるならもう少し施策の組み立ての再検討が必要だ。今日は是非、後半で皆さんの知恵をお借りしたい。

よろしくお願いしたい。

2. 市長あいさつ

■事務局（進行） 小坂市長からあいさつをいただく。

■市長 レジュメの一番後ろのページに恵那市の人口の状況が出ている。毎月の議会との交流会、説明会でも出している資料だ。ここには恵那市の数字だけが出ている。東濃 5 市で一番減っているのは恵那市だ。一人負けの状況だ。恵那市の人口が隣の中津川市や瑞浪市に流れていると想像される。恵那市の施策が十分機能しているかは先生から指摘があった通りだ。私は選挙のとき、働く、食べる、暮らすの 3 つのキーワードで対応したいと言ってきた。今までの総合計画の色付けが良かったのかどうかも含めて、積極的な意見を戦

わせていただきたい。期待している。

どうぞよろしくお願ひしたい。

3. 会議の公開、公表について（確認）

■事務局（進行） 恵那市審議会等の会議の公開に関する指針により、本委員会は公開とする。本日の会議は、2部構成で、第1部は議事、第2部はワークショップで3つのグループに分かれて行う。

議事進行は恵那市総合計画推進市民委員会設置要綱の規定により西村会長にお願いする。

3. 議事

【 第1部 】

(1) 提言内容への対応状況について 資料1

(2) 平成29年度主要事業及び実施計画について 資料2 資料3 資料4

■会長 議題1の、12月のこの委員会に提言してもらったので、提言内容についてどのように対応し新年度対応しようとしているかについて。2つ目の議題と一括して事務局から説明いただく。

[事務局から資料に基づき説明]

■会長 提言への対応と、それを具体化するための新年度予算についてお話しいただいた。予算そのものの審議は議会にお任せするとして、ここの推進市民委員会では12月に提言していただいた各部会等々の趣旨、意向が組み入れられているかどうか検討すればいいと思う。いかがか。一つは、医療、子育てについてはずいぶん考慮していただいていると思う。若者会議の市川委員、いかがか。

■市川委員 以前から言われていたように、子育てのことについては、問題点、改善点を組み入れていただき配慮していただいたように感じる。引き続き考えていただき、私たちの意見も取り入れていただき、こちらの方でも若者会議などでも新しい意見を出せるように、メンバーの構成など考えていただいて、参考にさせていただき、組み入れていただいて。ただ、若者会議は2月の開催がなくなってしまったので、そのときに皆さんでお話ししていただいて、またこういう場に持ち込んでいただける機会をいただければと思います。

■会長 もう一つ、ぜひ今回の総合計画の中では、働く、活力という柱をきちんと組み立

てなければいけないという意見も流れとしてあった。その点で、商工会議所や銀行の方からコメントいただければ。大下委員。

■大下委員 起業する方をサポートするということでサポートセンター。お話もいろいろ聞いている。当然ながらやっていくべきで、銀行サイドとしても協力したい。人材面で必要な部分があるので、連携してやっていきたい。

一つ、事前に資料を読み、提言の中で、移動手段の充実で、中央線の充実、名古屋圏の通勤通学するために中央線の発着件数を増やす提言があったが、毎年、経済部で手を尽くしてやっているということだが、実現の可能性はどうか。1時間に2本で…これは大きいのかなと思う。通勤通学時間だけでも3つ4つになればそれだけでも定住者がそれなりに来ると思う。

■副市長 JR恵那駅まで本数を増やすというのが一番大きな課題だと私も思っている。瑞浪市で1時間4本、多治見市だと10分に1本あるいは1時間に11本ぐらいあることがある。名古屋への通勤圏内としてポジションが高い。

最近、中津川の駅長に本数を増やしてほしいと言ったところ、こういう答えだった。「今2本あるのはかなりやっている方だよ」と。私たちの認識とJRの認識とが違う。駅の利用者数によって本数を増やすということなので、恵那駅からの乗降客を増やすことがポイントなのでそういう呼びかけはしたいが、JRとしては厳しい回答だった。

■会長 大下さんの方で十六総研越えで知恵を働かせていただきたい。恵那の持っている潜在力は、東北などの周辺都市と違って、大都市圏名古屋圏の周辺市なので、名古屋インパクトというか名古屋力というか。それとリニアインパクト。それをどう恵那の活力に結び付けるか。結び付けたときの経済効果を試算して提言していただき、それを示してJRと交渉しないと。利用客数だけではJRを崩せないと思う。もう少し経済効果等の試算をしていただき、そういうものを示しつつ本数を増やす新しい論理を組み立てないといけない。

働き立場で、連合の方から意見をいただきたい。

■小関委員 連合岐阜労働の代表で来た。初めてこの会議に来たので内容が分からないので発言は控えたい。

■会長 職場の改善もあるが、地域生活、家庭生活の24時間の態勢が整わないと実際に働き続けることはできない。地域のコミュニティー、日常生活の働く人たちを支える施策については手を打ったつもりだ。部会で十分議論してもらいたい。

そのほか、社会福祉協議会や、健康への対策についてなどないか。

(特になし)

意見が出ないので、第 1 部は締める。第 2 部で今のような問題を、人口減少について提言、対策、あるいはどんな行動がというご意見を伺いたいと思う。

単に数が減ったというだけでなく、出生数の資料で、12 月か 1 月の段階のものだが、減少傾向に歯止めがかかっていない。この問題は、総合計画を立案したとき 400 人を指すということからいくとマイナス 100 人で、目標値を達成していないという批判を受けるが、なぜ 400 人を設定したか再認識してほしい。これは各地の小学校を維持し得る数字として新入生を 400 人ぐらい迎えたいということだ。それが達成できないということは、各学年に 1 クラスあるような小学校の規模、現在ある小学校数を維持できないということになるということが、5、6 年後に発生する。目標が達成していないという批判はいい。目標値が高すぎるといふ批判は会長として甘んじる。が、そうしなければ地域のコミュニティー、地域の願いが実現できないという希望の数字だ。それが実現できなくてもそれに近い数字になんとか持っていけないと、複式学級になったり、1 年生と 3 年生の複式学級とかの好ましくない教育環境が現場で発生する。それを何とか回避したい。小学校だけでなく中学校レベルでも同じことになる。それによりそこに配置する先生が減る。少人数でマンツーマンでいいということにはならない状況が発生する。ということがありますので、是非、第 2 部ではそういう問題意識というか突っ込んだ議論をして皆さんの知恵を借りたい。

5. その他

■会長 協働のまちづくり指針について。

■事務局（小林） 12 月 20 日の委員会で安藤委員から協働のまちづくり指針を見直すことになっているが進んでないという指摘があった。その時点で作業をしていなかった。早速中身を点検した。

総合計画で本編 11 ページで、協働、協力、連携という中で、協働は地域との協働、行政とそれぞれの協働が大事な指針であることは間違いない。この指針を見直すことを 27 年の委員会でそう話していたが、再点検し、この基本的考え方はしっかり継承し、生かすこととした。実務的には字句では古い内容が含まれているので内部作業として見直しをしていく。

■安藤委員 1 年前そういう回答をいただいた。総合計画を作る時点で、新しい総合計画にそぐわないから見直すという言葉が出たと解釈している。その間、協働の指針にも目を通すことなくそのまま進んできた。せっかく作った指針なので中身を少し変えてでも活用していただきたいと思う。そのとき言われたのは、協働が連携になったということだ。総合計画の柱が連携ということで進んでいる。職員の中で連携ができていなかったということだ。部長がそれだけのことを言われたのだから、誰かが気づいて、協働の指針をすぐに見

て、そういう回答をもっと早くいただきたかった。

■会長 以上で第1部を終了する。

■事務局 第2部のワークショップは、会議次第3枚目の裏にグループ分けがしてある。

■会長 いろいろな提言への対応を一生懸命やったつもりだが、資料を見ると、全体として減っているが地区によって減り方に差がある。委員会の総論として議論すべきところと、地域計画で具体的な議論をすることと兼ね合わせながらやっていかないといけない。旧恵那の中心部と恵南のどこかの地区とは違う特徴があると思う。そこまでさかのぼって政策の有効性を議論していただきたい。

〔第1部閉会〕

10時39分 終了〔第1部〕